

深海マニアの小学生集まれ!

深海研究 スーパーキッズ 育成プロジェクト

深海に
興味がある!

動画制作に
関心がある!

深海生物に
興味がある!

海に関わる
仕事をしたいと
考えている

未知の領域に
とても関心が
ある!!

自身で
海洋、深海に関する
研究をしている

● どんなプロジェクト?

日本で最も深い海「駿河湾」を有する静岡県。

ここ静岡から、世界に誇る海洋・深海のプロフェッショナル人材を輩出すべく行われるプロジェクト。

参加者には、深海にまつわるさまざまな分野のプロによる講座を受けていただき、その後、自身の
関心あるテーマについて深く研究を進めていただきます。

また、自身の研究成果の報告動画の作成にも挑戦!

研究、アウトプットの両面を体験することで、次世代の海洋専門リーダーを育てます。

「"深海を活かした"僕たち、わたしたちの未来」を共に描きましょう!

このプロジェクトは日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として行われています。

- ・深海に関する各分野における研究者のお話を直接聞けたり様々なフィールドワークを体験することができます
- ・問題解決に向けた思考法「TRIZ(発明的問題解決理論)」を学ぶことで、課題解決能力が養えます
- ・相手に伝わりやすいプレゼンができるようになります

募集要項

〔募集対象〕 静岡県内を中心とした近隣エリアに在住の小学5・6年生

※静岡県内(主に東部地区)で6月～翌1月に開催予定の全11回(予定)の活動に参加できる人

※活動は土日及び夏休み期間を使って実施する予定です

〔募集人数〕 15人程度

応募にあたって 活動時には、テレビ・新聞等の取材・撮影が入ります。撮影した映像等は、メディア各社の報道に加え、「海と日本プロジェクト」に関連する事業の広報、及び「日本財団」の活動を広報する際に、テレビ、ラジオ、新聞、広告、WEB、SNS等の媒体で使用する場合があります。

応募方法 公式サイトからエントリーシートをダウンロードし、必要事項を記入の上、下記あてに送付ください

応募締切 5月27日(金)必着 ※締切日以降の応募は無効とさせていただきます

公式サイト <http://www.at-s.com/e/shinkai/>

公式サイトの募集要項、実施スケジュールなどをご確認の上、応募ください
選考結果については、6月中旬に応募者全員にメールにてお知らせいたします



送付先・お問合せ先

〒422-8033 静岡県静岡市駿河区登呂3-1-1

静岡新聞社・静岡放送 企画推進部内 深海研究スーパーキッズ育成プロジェクト事務局(担当:藤本)

TEL:054-281-9009(9:00~17:00 ※土日祝除く) MAIL:kikakusuishin@shizuokaonline.com

プロジェクトスケジュール

	開催時期	講座内容	場所
第1回	6月下旬	深海基礎講座①	沼津高専
第2回	7月上旬	深海基礎講座②	沼津高専
第3回	7月中旬	深海基礎講座③	沼津高専
第4回～6回	夏休み中	個別プログラム	場所未定(県内)
第7回	8月～9月	フィールドワーク	場所未定(県内)
第8回～10回	10月～11月	映像制作	静岡市内予定
第11回	12月もしくは1月	成果発表会	場所未定

(参考)2月もしくは3月 SBSテレビで特別番組の放送

深海基礎講座

駿河湾に関する基礎知識を養うプログラム。
沼津高専・大津孝佳教授の監修のもと、同校の学生がメンターとなり、深海の不思議について深く学びます。



個別プログラム

基礎講座を受け、実際に自分が調べたいことを見つけ、4つほどのグループに分かれ、グループごとに調査・研究を進めます。深海に関する研究機関や企業など、実際に足を運び、自分たちの力で研究を進めます。



フィールドワーク

船に乗り、実際に駿河湾へ出かけ、肌で感じるプログラム。水中カメラを使って深海を覗く体験などを予定しています。



映像制作

プロジェクトで学んだこと、感じたことをまとめ、1本の短編動画にまとめます。映像制作のプロの指導を受けながら、プレゼンテーション力を養います。

テレビ特別番組

プロジェクトの様子をまとめて、2023年2月もしくは3月にSBSテレビで特別番組の放送を予定しています

【監修】

沼津工業高等専門学校 大津孝佳 教授 [所属] 電気電子工学科 [職名] 教授
[学位] 博士(工学) [授業担当科目] 電力工学、電気電子計測 [専門分野] 静電気工学
1985年-2010年日立製作所ハードデスク用磁気ヘッドの開発
2010年 国立鈴鹿高専電気電子工学科教授
2015年 国立沼津高専電気電子工学科教授 内閣府知財創造教育 中部コンソシアム委員



主催:一般社団法人シヅクリ

共催:日本財団 海と日本プロジェクト